

壬申二月
加支册耶蘇教軍情言上書



114
A 4154
5

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

壬申二月日曜日二日横濱居留支切母
を師ハシラノ許ニテ彼宗ニ沈シテ者公院

洗濯ヲ受シ當日事情書



遂ニ洗濯ヲ授カリシ者教人アリルトイヘモ其
勢甚ク微ニシテ或ハ由政體ニ得リ且他ノ
見聞ヲ恐レ密ニ教師ニ入出シ他人ヲ遠ケテ教ラ

受ケアリシニ近來往々盛大ニナリ或ハ英學ト
稱シ半ハ彼宗ニ聖經トナシバイブルヲ讀シ
ソ或ハ會話舊古所ト名ケ多ク市在ノ男ケラ
集メ物語リニソノ哥ニ作り暗ニ彼カ宗義ヲ
授ク同ク者ニシモ直ニ惑溺セルハ稀トモ或ハ
學解ノ便リ隨ニ或ハ學費ノ助ニナサント利
遂ニ情ニ移リ遂ニ彼ニ誘惑セラルモ廣海ノ

魚針ヲ吞ミ大空ノ鳥網ニ入ルカ如ク一タヒ溺レシモ
ノ再ヒ出ルノ期ナク一己ノ迷惑フルニアラズ追テ
妻子親屬ヲ引キ遂ニ御星ニ及ビ近日ニ至リテハ
彼カ毎日ノ講席ニ列リ半ハ妖臭ニ醉ルモ尋
テ教ヘ難シ就中漫染ノ徒アリテ洗滌ノキヲ望ム
モノ多クモ此少クモ憚ルトコロアリテカ時々見合セル
折柄當春ニ弄リ彼教師自ラ之ヲ御治五申ノ

今年ハ天主正ノ道ニ至ルニ
度年ニシテ我等同洗ヒ来ル地ニ来リ十有五年
ノ篇志今得ニ聞ケトスイトモ願ヒテ女教ヲ施サ
シ若シ望ケモノアラハ十二聖ルナク洗禮ヲ授ケシト
ラ二月初ノ日曜日ヲ選ヒ九人ノ徒ヲシテ洗禮ヲ
受シテ高是ヨリ先ニ入リシ人ト共ニ公會ト称シテ
曰盟ノ約ヲナシ以テ妙法ノ策ヲ立テ日々得来ノ

基本ヲ確定セント云

一二月二日第九字信不信ノ生徒教十輩輻湊セシ
中ニシテ教師バラニシテ今日ハ別ノ新有日ニシテ英人タケ
実ニ洗禮ヲ望ミ初シ耶穌キリストニ代リテ洗禮ヲ
サツケニスルニ付テハ公會ヲ立ルモ其ノ由ニテ又通リ
追々此道ヲ弘メシガラハ必スナクテハナリニセ又英公會
ノ立方ニハイザカアリテ固々所々ナシツ、規則ガ

長老

違ヒス、然レ初共ノ宗旨ハ礼ヲナリケンノ政事
ニ從ヒ長老ノ官ヲ立テ、英會ヲ守ラ子ハナラヌ夫
故今モ彼方妻ノ内シ、礼入ラシシ長老ヲ選ビ互ニ申
コ合セテ夫々規則ヲ立テ之ノ普ノ考フル所ニ是ク
ナリト其規則ヲ奉タリ、取捨衆議、任スニシト
之、女ニ依テ列衆入礼セシコ小川庵之助トイハル
者、長老ノ官ニ任ヒタリ、女者入邪ノ巨魁ナリ

三七八年未一日モ教師ノ午ヲ雅シス、初ノ夕ウワンニ
從ヒ洗滌ヲ受テ昨年来バウノ館内ニ居住シ日々
彼ノ宗旨ヲ研キ縁元縁ヲ向ハス、教多人ノ教ヘテ
彼カ為レ諺感セズ、其後其教ヲシラス、依テ女者ヲ
長老ト見テ自他伏スルコトナリ、右様女シテ十二字
ヲ朝シ、若ク午食ノ為レ、陽散セリ、初午後三字又
寄集リ、外国男女ノ教師スベシモ人、日本先ニ受洗

セシモノ二人教多トモ今日受洗ノ者九人

イセ津 佐藤一雄

口 戸波捨尾

静岡 篠崎可桂之助

静岡 赤尾忠良

京 安藤劔太郎

松山 押川方五我

松山 進村漸

口 吉田信好

大坪正之助

其余教多ノ生徒礼拝堂ニ満テリ、教師上座ニテ
ヲリ右九人ノ者ノ前ニス、初ニ小川仁村ノ函人
ヲシテ一々被尋ニ宗義ヲ試問セシム、後ニ教師自ラ

洗礼

又クニ村ニ教ケノ試問ラテス、生徒一日慎シテ吾ニ今
日先生ノ尋ルトコロ且示ストコロ、我寺身年ヲ授レ望
ク相守ルベシト、遂ニ教師ハ天ニ白テ祈禱ス、極ニ年
ニ鉢ノ水ヲ取リ、之ヲ篠崎可桂之物、我父ト子ト聖
靈ノ名ニヨシ、爾ニ洗禮ヲ授ルト云ツ、首ニ水ヲ注ク
余ノ八人又是ノ如ク、然リテ又長ク祈禱ス、極ニ年
ノ言語突ニ聞ク、忍ビス、既ニ洗禮ノ式終リテ、教師

教師流涙
而喜

之ノ今日神ノ通守ヒキニヨク吾寺兄弟ノ交リヲ結ブ
「私シニ於クイトモ難有存シ私シ日々ニ来リシ以來
始テノ喜ヒテアリニストシ西眼ヨリ涙丸ヲ流ス其アリ
廿二筆ニモ載シ而シテ又云フ且又神ノ命ヲ受テ
今日始テ公爾ヲ立シ小川ニシテ長老ノ官ニ任ヒシ夕
コレモ亦私共ノカラニアラスヒトニ神ノナスコナリ故ニ
今我耶蘇キリストニ代リ小川ニシテ長老ト立テ彼ニ

長老官

長老權授

長老ノ權ヲ授ケテス彼方々々此右ハ何事モ世人ノ
原令ニ從ヒ和睦シテ其後ノ私ノ外國を師ノ年ヲカ
ラズトモ通シ傳ヘテ其國ヲ守ハヤフ師ニ至ルコトヲ恥ヒ
ニストシ小川ニ至セシバウモニブウランノニ教師立テ
彼カ天安ヲ抑ヘ天ニ向テ祈禱文ヲ移ク長老ノ役ト
定メタリ其中小川年ヲ額ニ當テ平伏シテ涙ヲ流
シ長々ト祈禱スルトナク頭ヲ奉レテキレシテ大望ニ
ツク

小川流涙而
感喜

晚餐

式終リテ合ニ晩餐ノ式ヲ行フ是又コトクニシ
礼上ニ蒸餅ト葡萄酒ヲキテ仰テ今日カ
ル新布席アラハシク其後行ハント歎スモハアテ方
其再シ知ラズ通リテ基督捕ヘラレノ所ニ晩餐キカ
罪ニカハリテ我身ヲ捨テ我血ヲ流スルヲ之ニ
パンハサキモハ我カ肉ナリ酒ラノメニ我カ新約ノ
血ナリトミシテアリコトクニシテ行キテ基督我

餅我肉 酒我血

教而流涙

等カメニ千八百余年前身ヲ捨テ十字架ヲ被テ受テ
死シテ今ノ標元ニハウヤクニ頂ヲ垂クトシ又ニ祈禱
スル所ニ蒸餅ヲ新中ニ置中一白ニ配リ各々其パン
ヲ食フ其時を仰息ニ午ノ者シ候ヲ流シ止シテ空
中人ナキカ如シ酒モ亦如是是式終ラテ一日我モ
ト祈禱スル所ニ其言ニ之ノ今日社ハ我國同國ニ
来是迄ニナキ聖日ニ過ヒ我寺カ人恩寵ヲ蒙ル

各人 祈禱

トイトマヲカチシ作新ハセ右イフニモ神ノ由ラタ
シタニ今日ノ聖僧海東ノ元トナリ遂ニ國中ノ押ッ
タリ上天子ノ活帳ニ向キ中政者ノ非ヲ除キ下
万民ノ匡ヒテ去リ異端卑陋ノ交ヲ断滅シ魔
鬼ノ國ホリ去リテ神ノ由國達ニ来リ其ノ一吾
手保フ希フ所ナリ昔キカラ足ラズシテ我ニア
タハス新ニク耶蘇キリストノ名ヨリテ同而シテ
ハシラ取スアナン^{已上取}意 禱告終リ右ニ喜
ヒシ告ケテキヲ握リテ去ル

上未臨時ノ情態其大畧ヲ記ス事由ニ至リ
ラハ鈍筆ニ申し載セ難シ^{不肖}其席ニ列リ
始テシ傍觀シ進ケハ彼カ奸難ノ遠畧ニ惡
ニ避テ我真心ノ菲クシテ至ラサハシテ軀ケ身心
悩擾殆ト断腸ノ思ニ沈ム伏ノ醜ヲ憂

國ノ諸賢君一曰ノ延促國家ノ真瘡ハアラシ
欽迅ノ帷幄ノ策ヲ立ラシ以テ防禦ノ通ヲ施シ
皇國不易ノ大道ヲ維持シ至ハシクソトスル

壬申二月

譯者某 恐惶謹白

精七ノ子ノ系

天正御

正十一平四月
限前郵寄贈

牛之所係之祀之結異殊之酷

烈難何能治之即安之系

能統之至也理之至也系之事

中悲味一呼下相克之日味来

書之本大年理之系何小

此悲之因之二會全之活活也

身之法為之也

出板之或新即之奥野又舊の也

之因能依之東京横濱間之板木

以之相常之或外之仲料之

申之其也之或國禁之格以是

アランーン怖之也之至也右之事

之り油着奥野之殆之感也

之先達之東京任若町之自稻

葉低年之即之高砂屋果之

之依之申紙之板并全之也系

之仲料之以之活之既之馬可借之

之寸也之粗出来之系才次之也

之傳尔之也之云抄之系搜集之也

之右稻葉之國禁之也之系程也

之由之也右之奥野之也之件也

之系一私常之也之也之也

之也之也之也之也之也

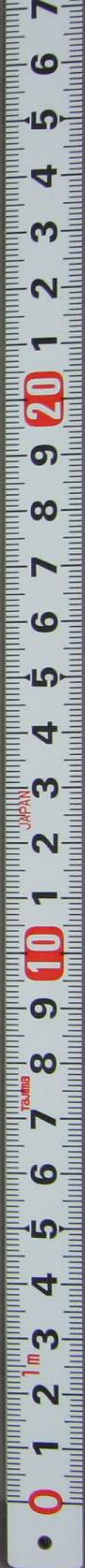
壬午年七月二十日
為守守守

手來搜索之事情

一王政耶穌教の密議は白く先達岩倉全權大
使に國に於て條約を締り日本居及外國人を日
の國則に從順スルキ一條ヲ其言セリ是れ全權大使
の意に唯法に一事を立り依り亞國の大統領モ其
意に是示知し遂に條約を諾セテ是れ日本及大
統領の間聊か隙を生じ其後法廷に於て事件を想
ん 且て其後美國の海軍が然るに其日全權大使國

大正十一年四月
大隈侯爵邸書贈

小池



日孫、降約ハ洵ルニ是ノ事ヲ云フ多シ、漸ク皆以て後佛
王ノ移轉ニ及リ、日孫ノ元來、彼王ニ發信、信ニ國民、密
直ニ故ヲ以テ、無莫、日孫ノ事ヲ、女雜至、必ス、大使、彼國、互
互中ニ、交際、上ニ、托テ、雜事、云々、托、款モ、雜計、然、上、女
大使、歸、朝、夜、一、會、國、林、テ、嚴、シ、我、友、信、信、國民
ノ、苛、酷、ノ、所、分、年、式、モ、雜、計、云、小、川、産、之、即、曰、云、來
友、常、ノ、足、弟、追、各、所、ト、散、云、積、淡、友、者、モ、在、來
比、ス、ハ、殆、ト、衰、微、ノ、勢、カ、リ、然、半、貞、野、又、若、馬、福、寫、金

久兵衛ハ凡ソ家族在リト云、之、衆、ヲ、除、ク、外、皆、烏、合、シ
書生、ト、シ、一、定、シ、任、所、モ、云、シ、後、日、ト、何、所、ト、散、云、式、モ、雜
計、歎、息、シ、事、ト、然、ト、追、ク、全、權、大、使、所、歸、
朝、夜、果、シ、テ、苛、酷、ノ、舉、動、モ、云、シ、後、云、存、族、ヲ、擡、后、
衆、ト、殆、ト、尚、感、シ、至、也、依、ク、右、木、族、共、且、ツ、尚、州、市、中、
后、位、ノ、兩、三、衆、モ、吾、ホ、日、孫、追、ク、吳、館、内、ト、任、后、為、政、友
ト、云、友、抑、ト、愁、告、ル、事、ト、云、在、ル、移、又、多、衆、友、部、者、ガ
追、隨、ノ、後、友、抄、ガ、所、云、美、向、藩、内、各、所、ト、托、テ、日、ニ、復、友

御繁蓋并彼繁之内ハ頗々刻苦シテ存テ思
事ナシ右ノ件并八月申下旬ニ於テ初内立及ニ世
ニ及ハ一會シ後ニ血縁ニ及テ系親系并右ノ事
情控索ニ終ラズ致テ系報告ハ誠惶頓首

七月廿八日

横濱
深信大印





大正十一年四月
第十九號

大正十一年四月
限正侯爵郵寄贈

大正十一年四月
限正侯爵郵寄贈

雨ニ秋冷相増
相増は雨ニ
相増は雨ニ
相増は雨ニ

一別
別
別
別

社
社
社
社

嚴島ノ社頭ニガ
敬導シ玉フコト
講席ニ坐シテ
昔シ體認シテ
朝旨ヲ遵守ス
高ラカニ讀先
ハシ整肅セシメ
ノントスルノ
訖嚴シ施スモ
如シコカシ

高
朝
昔

社
社
社
社

大正十一年四月
 大隈正侯爵郵寄贈
 第十九號

時之秋冷相増治意 伊あ村系
 然之至や下略之や三事性事や此話
 一呼

別紙を有晦林真野又在場のたやあゆ
 タムソシ義ニ小川益之四日迄ニ尚權の義寫
 社款ノ所從安ノ社同ノ及宿相得
 一書ニ用有安世内卷入多府云云敢
 等

才次東京人某の上総正水更津野為佐久
 間常刀古ト一書ヲ贈ラリト云來也亦亦
 親族小川益之而大を横濱ニ在外國人ハラ
 及ヒタソシ梨小保ッ交接ノ既ニ此ニ依頼
 沙ノ希条然ニ彼西外人女同同願ニ至
 人扱ハ治女自控小川氏ニ高押ニ多維安

托哉ニ雜計ノ方女ノ十場内通ヲ御や
 左ニ女ノ多毎年彼外正人依頼ニ安控
 控文ニ云見控氣任ホニ運感ニ云々間
 之ニ通チ高押ハ拙系能者ニ非クニ化
 久間右玉入年并大ニ驚キ云云敢曰
 野内曾根村甚三指トセシ右玉事

之ニ伴小川上及内通ノ及小川ニ一時
 然云云敢バラタソシト多内味ニ及五人
 得ニ復有ニ直ニ此ノ事ノ心あ着ク系

然ニ小川分佐久間ト女顔大膽下返玉事並
 自云ニ返玉事、右附等東京人ト官談
 ヤ物又市人ト怪街頭風流ノ向キ又附等

正十一年四月
 大隈正侯爵郵寄贈

嚴島ノ社頭ニカ
 敬導シ玉フコト
 講席ニ坐シテ
 首ヲ體認シ天
 朝旨ヲ遵守ス
 高ラカニ讀先
 心ヲ整肅セシメ
 シメントスルノ
 シ説教ヲ施スモ
 講ノ如シカシ

此の序条然に彼西外玉人女同國歟之至
人物の場女自然小川氏之高標と多維実
托哉と推計し方女十坊の通に御や
去り女人より毎年彼外玉人の依頼に安ん
住文を以て然る旨任事運感も三三之間
之と通を為す探は拙糸配意三三の化
久間を右に玉入年并大に驚き示天敵日
野内曾根村甚三橋下をシ出港セシノ右中
之に伴小川七及内通、又小川一財情
然る天敵バラタラン十及内味三及五人
得て復た達し然る情、一心あ着、糸
然る小川分作久間十女願大膽下返玉舞並
由を返玉舞、右藩寺如糸人十官談
ヤ物又市人、唯街頭、凡て同、又附、
又下或木石向、此舞、于、ま返玉舞
之來由、之付、然又之達、返來小川市、
預り居、依久間、小童、之通、通、洞、會、舞、
由、之、向、き、之、方、正、向、之、音、信、之、來、由、
之、付、

一日十五日

深信者
再あ

小栗様
以候

中野三平

卷十六

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

茲載壬申ノ初秋末ツガリ當港巖島ノ社頭ニガ
イテ敎部ノ講筵ヲ開キ衆庶ヲ敎導シ玉フコト
アリト聞我徒西ニ名トヒニユキ講席ニ坐シテ
ソノ説トコロヲ聞ニ敬神愛國ノ旨ヲ體認シ天
理人道ヲ明カニシ皇上ヲ奉戴シ朝旨ヲ遵守ス
ヘキ等ノ三則ヲ揭示シ且ツレヲ高ラカニ讀先
ヅ朝廷ノ巖威ヲ示シテ聴衆ノ心ヲ整肅セシメ
已カ説話ヲ信仰シ誅議ナカラシメントスルノ
意懇々トシテ言辞ニアフレ通ヲ説敎ヲ施スモ
ノ、氣象ニ似ズ恰モ市街ノ買講ノ如シシカシ

テ自ラ云へルニカリノ如ク巧言令色ナラサレ
ハ説教ノ意味感通スルコトナキヲ恐ルトコ
ニカイテ余仁術ノ解クシテ示ストコロノ三則
ノ名実アヒカナハサルヲ歎息スイカニトナレ
ハ先ツツノ大畧ヲアゲテ云ハンニ彼カ説話ノ
中ニ云へルハ近リシテ遠キモノハツヅララリ
ノ路遠シテ近モノハ男サノ心ナリ又コレヲ
層フカリ説ケハ至テ遠シテ近モノハ神ト人ト
ノ間ナリト又云モシ人神ヲ祈ントスルトキハ
必ス理ヲ以テ神ヲ責メ神ニ議論ヲシカケテ神

理ニ伏シウケザルヲ得サルガ如ク迫リテ神ナ
ホウリルコトナリ靈驗アラタナラサルトキハ
神在サビルモノト思フベシト某ノ國某ノ娘
魚ニトラレシ故事ヲ引テ説話セリ又云天御
主ノ神高皇産靈ノ神神皇産靈ノ神コノ三柱ノ
神造化ノ首ヲナシ玉フニ高皇産靈神神皇産靈
神天地ニウカレテ天御中主神ノ功用ヲナシ玉
ヒテ天地萬物コトククコノ神靈ニヨリテ成イ
ツルナリ故ニコノ二神ノ御名ヲ産ト名ケテム
スルハ物ノウマルト云フトニテ世俗ニムス

子ムスサ又ハ苜ノ岩ニムスナドスベテ物ノウ
マレイデヨリ合ヘル義ニテムツマシキナドイ
ヘルモアノ心ナリトゾ又云天照大御神ハ日ノ
神ニシテ高天原ヲ治ス御神徳廣大ニシテ萬物
萬事コノ神ニ依頼サルモノナシシカルニコノ
神天ノ岩戸ニカリレサセ玉フコトアリシハコ
レ世ノ禍ノハビメナリト又云彼ノ産靈ノニ神
天地ニ在テ萬物ヲウミイダシ玉フカ故ニ物ニ
ナニツ合セシ形ヲツナヘリ人ノ形體兩眼アリ
兩耳アリ鼻ハ一ナレヒ竅ハニツロモ一ナレヒ

上下ノ唇齒アルカ如クスヘテ草木ノ果實ニ至
ルマデ悉クニニシテ一ナラサルハニ神ノ造化
自然ト物ノ形ニツナハレルモノナリ又云魂内
ニアリテ耳目口鼻ノ視聽臭味ヲ司トラシムル
コト君ノ臣ヲ使令スルカコトリ亦魂フノ手ヲ
シテ諸ノ器物ヲツクリ出サシムトソノ外サマ
クノ説話アレヒ悉ク枚舉スルニイトマアラス
今シバラリソノ一二ノ説話ニツイテコレヲ論
セシ蓋至テ遠シテ至テ近ハ神人ノ間ナリト云
ヘルハ人誠心ヲツツサバ遠キ遠界ニアルトコ

ロノ神忽人ニ近ツキ利益ヲ授ケ玉フベシトノ
敬ニシテ神人ヲ愛シ玉ノ意ニモトレリイカニ
トナレバ神ノ人ヲ愛シ玉フコト父母ノ子ヲ愛
スルガゴトリ行住坐臥片時瞬息ノ間モ人ニ離
玉フコトナシシカルヲ子タルモノ父母ノ敬ニ
シタガハズ父母ノ怒ヲウケルニヨリテ父母ヲ
畏ルノ心ヲ生シ父母ニ遠カルトキハ父母ナ
ホソノ子ノ惡ニガタイランコトヲ憂ヒ懸念連
々トシテ置サルニ子タルモノ是非ヲ悔ヒ心ヲ
改テ父母ニ敬スルトキハ父母喜テコレヲ愛ス

ルカコトリ人神ノ敬ニソムキ罪ヲ犯ストイヘ
凡神ナホコレヲ罰スルニ思玉ハス。愛子ヲコノ
世ニ降シ懇切ニオシヘサトサシメ信シテ悔ヒ
改ルヲ待テ罪ヲ贖ヒ惡ヨリ救ヒ出シ永生ノ路
ニ進マシメ玉フハ真ノ神ノ御心ナリサレバ神
人ニ遠カリ玉フニアラス人神ニソムキテ遠カ
ルナリ故人ヲ敬辱スルノ詭譎ニハ神人ヲ愛シ
近ツキ玉ヘ凡人神ヲ愛セシテ遠ヤルト云ヘ
シ又神ヲ理責ニシテ祈リモシ驗ナリニハ神在
サジト思ヘルヲ某ノ実事ヲ引テ説話スルハ人

ニ敬ルニ神ヲ試ルノ處ヲ以テスルナリイカニ
トナレハ人誠心ヲツリシテ神ヲ祈ルトイヘ氏
靈驗アラハレサレハ已ニ已カツクセリト思フ
誠心神ヨリ照覧タマヘハイマダツクサバルト
コロアルカ又ハ祈ルトコロ理ノ當然ニアラサ
ルカシ願ミ神ヲ愷ミ奉ルノ念慮一點モ発サス
猶ツ、シニテ身ニ反フシ神ニスカリ奉ルコト
父母ニ號泣スルカカリシテツヒニウケ玉ハサ
ルトキハ死シテ後止ムヘシト敬テ可ナリ矣ナシソ
預ノ利益ノ有無ヲハカリ神ヲ有無ノ間ニ置リ

ヘケンヤモシ人神ヲ祈ントスルニ臨テ神ヲ有
無ノ間ニ想像セバ必ス一點ノ疑念ヲ生スベシ
モシ一點ノ疑ヲ生スレハステニ一點ノ信心ヲ
カリベシ苟モ信心カリルコトアラバコレヲ誠
心ヲツクスト云ベケンヤカノ某ノ父愛サテ鰥
魚ニトラレシソノ恨骨髓ニ徹セシニヨリテ神
ヲ祈ントスルトキ豈神ヲ有無ノ間ニ想像スル
ノ念ガコランヤ必ス靈驗アラシコトヲ信シ心
ヲ一ニシテ祈シ故不思議ノ靈驗ヲ蒙リシモノ
ナランコトニコノ驗ヲ現ハシ玉フハ世教ノ人

鬼山川ノ邪神ノワザナリト思フハ大ナルヒガ
ゴトニラフレシナ天地主宰ノ神ノ鯨魚ノイマ
シノトラレシ父ノ心ヲナリサメ玉フ御業ナリ
シカルヲ某ノ國某ノ村ノ鎮守何大明神ト稱ス
ル神シカクノ靈驗アリシナド、説話スルハモ
トヨリ天地萬物ヲ主宰シ玉フ神ハ獨一ナルフ
トウサトラス天御中主神ヲハシノ月ノ神月ノ
神水火風土ノ神ヨリ葺不合尊ニギハヤヒニ至ルマテラ神
代ト謂テサマク神ワザアリト思フハ古書ノ奥
義ヲシラサレバナリイカニトナレハ支那ノ古

書ナル三五歴記ニ天日高一丈地日厚一丈盤古
日長一丈トアル文ヲモテシルベリ盤古トハ支
那ヨリハジメラ亜米利加國ニイタルソノ地靈
ヲイヘルモノナリソノ首ハ泰山トナリ血ハ江
河トナルトモイヘルソモテ人ニアラス國土ナ
ルコトヲサトルヘキコトナリ又同書ニ盤古氏
ノコトヲイヒテ日ハ甲子ニハシマリ年ハ甲寅
ニカコレリトアリコレニヨリテ思ヘハ我神代
卷ニ見タル蛭ヒル子トイヘルモノコレニアタレリ
コノモノ神ニアラス國ナリ古事記ニ國土ウシ

ナサシトイヒテ。ウミタマヒ。國、エウミラヘテ。更
生神トイウ文アルヲ蛭子ハウニウミノ方ニア
リ更生神トアル方ニハアラヌヲモテ。コレハ神
ニアラヌ國、エナルコトヲサトルベシ和漢ニ
上古ノ傳説ハ、天地萬物造化ノ理ヲ神トナ
シ人身トモナシツタヘタルモノナルヲ後世ノ
ノ名ニマヨヒテソノ義ヲサトラサルニヨリテ
我神代ノ卷ノコトキハ殆ト妖怪説話ニヒトシ
ノ説得サルモノ多カリケレハ蛇足ノ説ヲ附會
シテ益混沌未分ニ屬セリ故ニ天御中主神ヨリ

和魂大物主大和ノ三輪ニ鎮玉フマデ數萬歳ヲ
經テ事ニナ今ヨリ推シテ和ルコト能ハストイ
ヘリ抑我日本國ヲ神國ト稱シ海外ノ萬國ニ超
出セリト思ヒ誇トモ天地主宰真神ノ獨一ナル
ヲサトラスシテイカテカ歐洲西洋ノ諸國ニ對
峙スルコトヲ得ンヤソレ歐洲西洋ノ各國ステ
ニ耶穌教ヲ信スルモノ幾千万トイフコトヲシ
ラス皆ナ悉ク獨一ノ真神アルヲシリテコレヲ
尊崇シ政教コレニヨル故ニ同心協力シテ國ヲ
治メ開化日ニ進ムトキケリコノ故ニ方今我邦

亦旧染ヲ一洗シテ開化ニ進ニコトヲ欲シ文成
ラ講ニ器械ヲ製造スルモ多ハ歐洲西國ニ倣フ
テ大ニ便利ナルヲ悦ビ各新奇ヲ競ヒイタレヒ
イマダ真ノ開化ニ進コト能サルモノハステニ
中村某建白書ニ識セシコトリソノ枝葉ナル文
藝器械ヲ羨テソノ根本タル教ヲ企望スルコト
ナキハソノ教ノ善果ヲ食ハズソノ味ノ美ナル
ヲ知サレハナリシカレニ彼説教ノ徒猶旧習ニ
泥ミテコトニ注目スルコトヲシラス説示ラ云
ヘルニ仇我日本國王ノ禁シ玉フ外夷ノ邪教ヲ

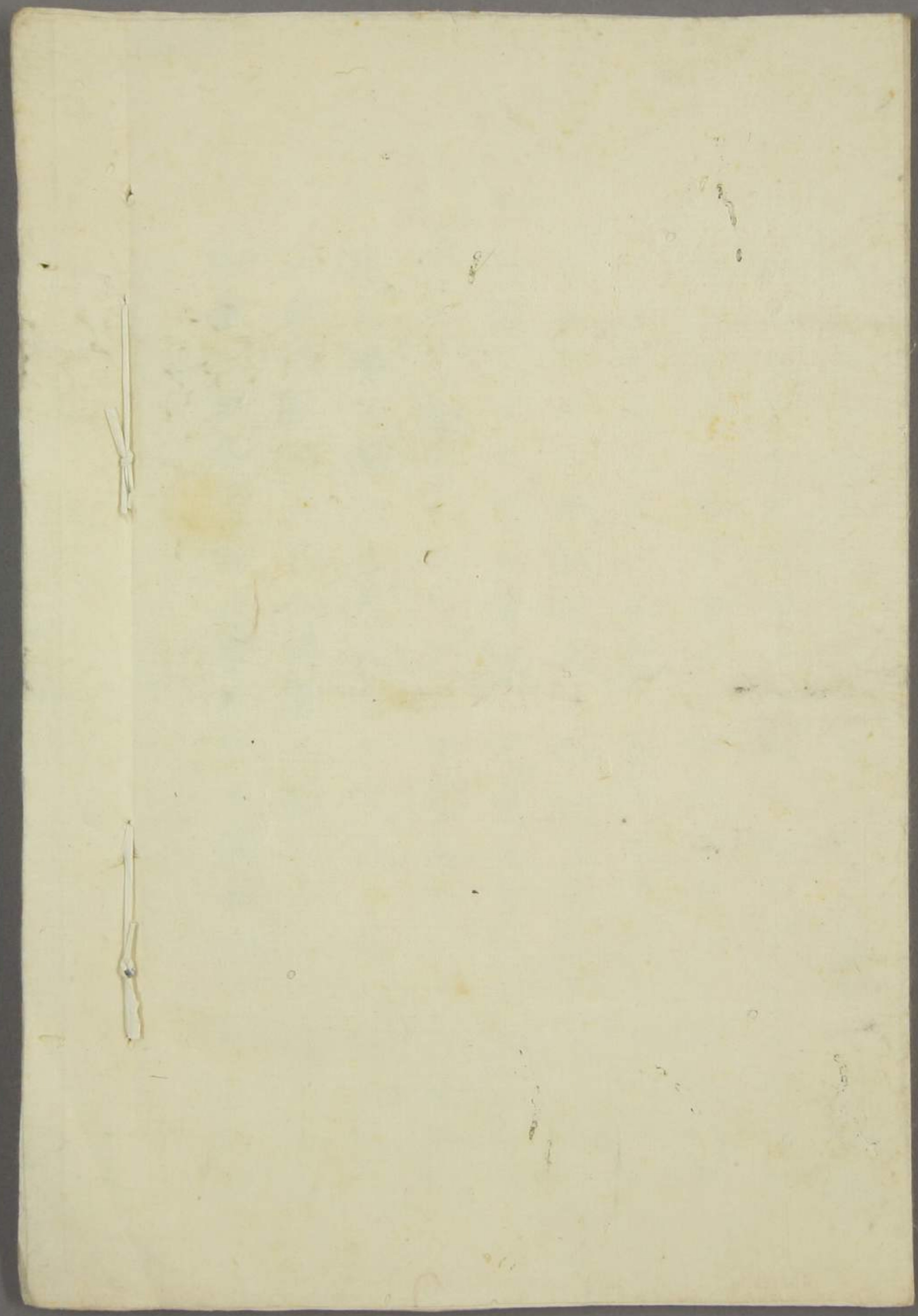
信シ己カ本邦ニ正シキ教アルヲシラサルハ隣
ノ倉ニ入り珍寶奇品ヲ見テ羨己カ家ニカヘリ
己カ庫ノ内ヲ索レバソノ羨トコロノ品ハステ
ニ我カ庫中ニアルカ如シトモシコノ説ノコト
リナラハ西洋ノ各國ハコレヲ隣ニ比シソノ庫
中ノ珍寶ハ耶穌ノ教ニナゾラヘンシカレニ彼
イマダ隣ノ西洋ニユキテソノ珍寶ナル耶穌ヲ
學サレハソノ教ノ珍寶ナルヲシラズシテコレ
ヲ邪教ナリト云ハ庫中ノ寶ヲ見スシテ无益ノ
玩物ナリト云カ如シシカノミナラス耶穌教ヲ

禁スルハ隣ノ倉中ノ寶ヲ見ルヲ禁スルカ如ク
ソレコレヲ禁テ見セシナズイツクノ器
ノ善惡ヲ知シヤコレヲノ説話ハ更ニ脣ヲハリ
テ抗スルニモ足サレト慨歎スヘキハ天地主宰
真神ノ獨一ナルヲサトラス天照大御神ハ日ノ
神ニテ高天原ヲ治スナド、古傳ヲ株守シテ説
ハ笑ニ人ノ心今ニ至テモナホ混沌未分ナルカ
ト淺間リカナシムヘキコトナラスヤスラニ方
今西洋ノ天文窮理書等傳習シテ黒髮青面ノ小
書生モ日月ノ神ト稱スヘキ理ナキヲシヤリ況

ヤソノ書ヲ研窮セシ教師ノコノ説ヲキカバ必
ス一突スヘキヲヤ加之天地イマリ聞ケサル前
ニ天御中主高皇產神皇產ノ三神アリナド、イ
フ説ハ漢儒ノ所謂一本ハ萬種或ハ太極兩義ヲ
生シ或ハ通ノ本源天ヨリ出ツル等ノ諸説ニモ
劣リテ正シク造物ノ主ヲ三トナシ一本ヲシテ
萬種ニ本ツカシヲ兩義太極ニ混淆シ通ノ本源
モ亦三所ヨリ出ルカ如クナレハ人々ウケルト
コロノ靈魂モマタ三神ノ賦與スルトコロトセ
ニカ將テ萬物ニ賦スル理モ亦三箇ノ理アリト

イハンカコトニコレノシニ非ス。嚴靈ノニ神萬
物ヲウミイダシ玉フカ故ニ物シナニツ合セシ
形ヲソナヘ耳目鼻口ノ如キシナニツマリナド
イフニ至リテハ妄説ノ甚キモノトイフベシイ
カニナレハ兩眼左右ヲ正視スルアタハズ兩耳
兩聾シカケキハ黃嘴ノ児童モヨリシルトコロ
ニシテ論ナキコトナリ。今余カコレヲノ雜語元
説ヲ聞テ批判スルハ敢テ彼徒ヲ誅議スルニハ
アラス我邦内ニ眞ノ神童顯レサルヲ悲シ且彼
徒ノホリ聖靈ニ惠レサルヲ憐ム依テ耶穌教ノ

國家ノ理非ヲ善リ質スコトヲ知ラシナント欲
シ自ラ固陋ヲ忘テ鄙懐ヲ述ルトイヘ托コレヲ
人ニ示シ誇シトスルニハ非ルノミ



壬申 八月廿七日到来ス

壬申 捜索ノ事情アリト

一 西貢 伝件并 當港ニ於テ 追口ニ来ル 故地 船程

運送并 改ノ 船ノ 壬申 各港 在ル 耶蘇 故地 當港 内
輻湊シ 去ハ 十八日 叔分 亞國 三十九 故一 ボン 會也 於テ

日 叔 集 議シ 次 不 代 入 直ニ 在リ

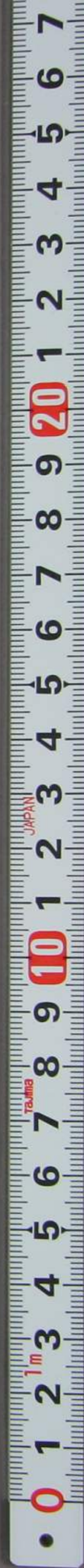
一 各 日 石 會ニ 在ル 故地
グリーン バラ タカリン ヴァルフ

ミーク ルームス ハン サイル 港 在 上 備 デベス 子 在

既 在 故地 グリーン ベリー 既 在 故地 スタート 在 故地 長 故地 中 故地

大正十一年四月
天隈侯爵郵寄贈

石鷹 於 後 同 代 大 ト



ニ策ニ相違シト

一 横濱支店 所屬 右在地理人情、台、新

日本支店、一規則ヲ施設シ外正所屬、支店

繫属ニ改テ便宜ニ策ニ相違シト

一 十八日叔内談、件白人ノ博キ、或羽子、春外五人集

新聞紙中、バウ、談、新報、非、公、布、告、改、シ、再、日

人、談、報、面、且、ツ、奮、怒、ハ、系、中、所、在、及、タ、ウ、ン、サ、イ、ル、シ

二人ノ、頼、右、新聞紙、屋、上、及、夜、橋、台、右、返、報、新、報

再ニ摺出シ、少、或、ニ、相、違、シ、ト、由、ニ、由、所、在

一 去、月、日、一、般、ノ、日、曜、日、ニ、由、所、在、以、右、所、屬、及、右、所、屬、


ハ、再、支、店、追、加、支、店、ノ、生、徒、正、不、殊、東、港、口、也、常、

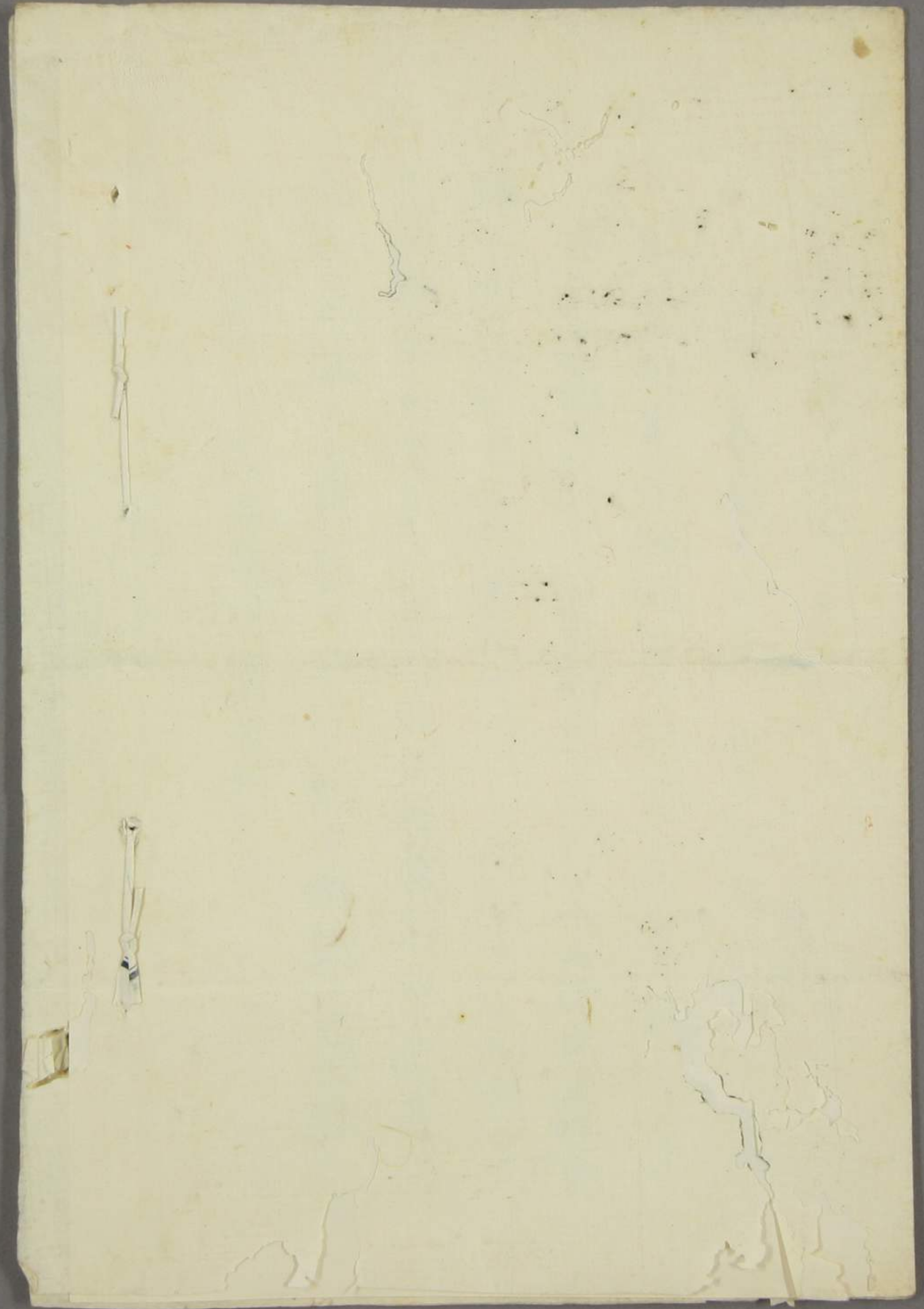
晩、餐、ヲ、相、守、ル、事、ニ、由、所、在

右、在、島、内、所、在、ノ、事、情、搜、索、シ、得、テ、不、放、テ、報、告

誠、惶、頓、首、再、拜

八月二十日

横濱支店
信友




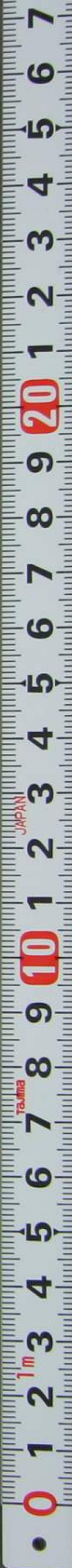
九月十四日

捜索の事情を申上候

一 友常の規程の第六條に準じ一昨三日土曜日の午後
 為地石之中七表の間に會を於て小川左衛門井尾親
 藤守桂之助進仰敷 押川右美我 吉田信好 杉山孫六
 伴左友賢 湯淺久兵衛 本田彌一 以外は御座ら
 ざりしに上惣計十三名集候に上友常規則変更確
 定候件に御座り候

一 長老の撰に件 右に依り小川左衛門長老に任

天正十一年四月
 限 侯 勝 守



唐文子目ニヨリシニ東京十轡任ノ新小川居候
唐宗統ニシテ東内ニモ曾統叔系在候
唐小川ハ東京ノ長老ノ任別ノ高權ノ長老ノ人撰
唐ノ事存候ニモ撰至シ式ヲ東ニ十官ノ自曜日ニ云云
シヨクモ撰定候ノ事也

一 曾統出金ノ件 右ニ撰來毎ノ日曜日ノ各人
ニ出金死シテ表出シ規則ニ在リテ東ノ各人具分
應ニ毎月在費ノ際ニ亦余ニ在業シ十分一ヲ出金ニキ

系設後ノ友事ニ事也

一 晩餐長時ノ件 右ニ撰來毎ノ日曜日ノ午後分
ニ享分ニ式ヲ守リ來ニ交シテ多業津柱師ガ申シ來
シ候次カモ在リテ新撰來ニ午分第九字ガ所式能得
シ分ニテ遠來ニ祭ニ四年ノ長老宅ニ於テ一味ニ午餐シ
喫シ午後分一ノ字ガ遠上ノ各人共ニ再會祈禱候
日設候ノ散香ニキ系相設シ友事ニ事也
右三條ノ事奉ル禮見ニ事以外曾統ノ業区也

仕官ホニ件有給、祿俸之立、地ノ右、昇是の書、
基本トシ臨概度度、和五、改系、祿定、及事、以符、右
櫻京、侍、子、守、報告、無、祿、惶、有

九月五日

櫻京
兼信

